

フェーズ1 災害発生時の初動対応

想定： 大雨により施設周辺が浸水し、電気・ガス・水道が停止。夜勤職員は出勤できず、日勤職員のみで対応。
通所介護の送迎が道路の亀裂で不能となり、利用者の宿泊対応を急遽開始。
居宅介護支援事業所・地域包括支援センターは施設内で事務処理を継続。

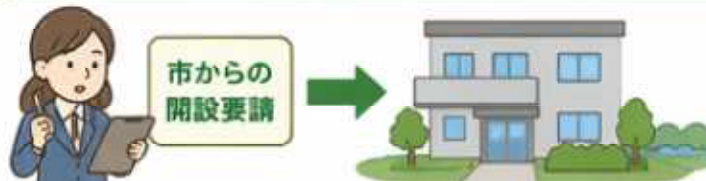


グループ討議

- (1) 電気・ガス・水道が停止した場合、施設内のどの設備が最優先で代替電源を確保すべきか？
- (2) 夜勤職員が出勤できない場合、日勤職員の業務負担増加をどうカバーするか？
- (3) 外部支援はどのように要請するか？
- (4) 利用者や職員の安否確認はどのタイミングで、どのように実施し、記録は誰が管理するか？
- (5) 通所介護利用者の宿泊にあたり、緊急連絡網はどのように機能しているか？
- (6) 連絡がつかない場合の対策は？
- (7) 浸水や道路亀裂で送迎ができない場合、代替の移動手段や対応策はあるか？

フェーズ2 福祉避難所開設準備と対応方針決定

想定： 浸水が収束し、市から福祉避難所開設の正式要請が届く。
特別養護老人ホームは、施設内で生活継続を決定。
通所介護利用者は、施設内に宿泊し、食事・健康管理を行う。
居宅介護支援事業所・地域包括支援センターは、福祉避難所運営支援と地域避難者対応準備を開始。



施設内で生活継続



事業所の対応



備蓄の確認



グループ討議

- (1) 市からの福祉避難所開設要請を受けた際、どの部署が最初に対応し、どのような手順で進めるか？
- (2) 避難不要と判断した場合、施設内の安全確保策（浸水防止、火災対策など）は具体的に何を行うか？
- (3) 物資（食料・水・医薬品など）の備蓄量はどの程度か？
- (4) 備蓄品不足が判明した場合の調達計画は？
- (5) 職員の動員計画はどのように策定しているか？
- (6) 緊急時の連絡手段は確保されているか？
- (7) 福祉避難所周辺の浸水リスクを踏まえた防災対策はどのように実施しているか？

フェーズ3 生活維持と連絡体制の強化

想定： ライフライン停止期間中、食事・飲水・排泄ケアの運用に制約がある。
職員の疲労蓄積による労務管理やメンタルヘルス支援が課題。
緊急連絡網の検証で連絡遅延や情報共有不足が判明。

食事・飲水の工夫



職員のサポート



安全確保の工夫



グループ討議

- (1) 食事や飲水の配給はどのように計画しているか？省エネや廃棄物管理の工夫はあるか？
- (2) 職員の疲労軽減のための交代制勤務や休憩場所の確保は十分か？
- (3) メンタルヘルス支援はどう実施するか？
- (4) 避難や施設内移動時の安全確保策として、バリアフリー対応や緊急通報体制の整備状況は？
- (5) 緊急連絡網の整備状況は？
- (6) 連絡遅延を防ぐための工夫は？
- (7) 入浴サービスが中断した際の代替サービス計画（訪問入浴やシャワー設備利用など）はどうなっているか？



フェーズ4 被害状況の把握と今後の対応検討

想定： 浸水や設備損傷の被害状況を初期把握し、関係機関に報告。
物資・人員不足時に支援要請を行う必要がある。
福祉避難所の運営期間が長期化し、利用者の段階的帰宅支援計画を策定。
災害後のサービス再開に向けた段階的行動計画を作成。

被害状況の初期把握



情報共有・報告



支援要請の実施



段階的帰宅支援のイメージ



サービス再開に向けた段階的行動計画（例）

1. 安全確認・復旧準備（設備点検・清掃など）
2. 限定的サービス再開（一部機能から再開）
3. 通常サービス再開（全体再開・安定化）

グループ討議

- (1) 浸水や設備損傷の被害を初期把握するための具体的な手順やチェックリストはあるか？
- (2) 被害情報の共有はどのように行い、関係機関への迅速な情報提供はどのように実施しているか？
- (3) 物資や人員不足時の支援要請はどの部署が担当し、どのようなルートで行うか？
- (4) 福祉避難所の運営期間想定に基づく利用者の段階的帰宅支援計画はどのように策定しているか？
- (5) 災害後のサービス再開に向けた段階的行動計画の課題やリスクは何か？

